Paradiso

New way for enjoying Baja California

もうひとつの"バハ"。Baja Rally 2016

本誌読者であれば、きっとご存知だろうメキシコ・バハ・カリフォルニア半島。これまで、数えきれないほどのライダーを虜にしてきた土地だ。カリフォルニアらしい乾いた空気に碧い空。そして一度町を出れば、どこまでも広がる手付かずの荒野は、まさにモーターサイクル・パラダイス。僕らの胸を躍らせる絶対的に美しい景色が広がる。この半島を舞台にした世界最長のスプリントレース"BAJA1000"は、来年で50周年の記念大会を迎える。その一方で、2013年にスタートし、今年で4回目を迎えたBaja Rallyも着実に成長。13カ国から80人を超えるライダーがバハ・カリフォルニアに集結した。

Photo & Text by Tetsuyasu Sato
Special Thanks: Baja Rally
http://www.bajarallymoto.com/

Coolest things

バハ1000やBaja Rallyなどレースの舞台としてだけでなく、ツーリングにも最高のロケーションが広がるバハ。実際、多くのライダーが素晴らしい景観を称賛していた

Tetsuyasu Sato　佐藤哲康
30歳を機に雑誌編集部員をやめ、アフリカツインで2年間の世界一周へ。その道中、バハを走り、その虜となる。帰国後は旅行会社に勤務。添乗員としてバハをはじめ世界各地を訪問する傍ら、2012年にはバハ1000へサポートとして同行。昨年、XR650Rに乗り換え、まずは国内のエンデューロ自走参戦を目標に練習中

1 2
3 4

5 6

① SS1 プンタ・カブラス近くのコーナーを駆け抜けていくスティーブ・ヘンジベルト。まるでバハ1000 に出場しているかのようなアグレッシブな走り、そして、適格なナビゲーションが光った。SS1 で稼いだタイムを守り切り Baja Rally2 連覇　②プロローグステージ。ワイン畑が広がる中、丘陵エリアを快走するメキシコ人ライダー、カルロス・グラシダ。ダカール・ライダーにとっても走りがいのあるルートが設定される　③ Baja Rally では必着とされ、今回のメインスポンサー Rally Comp 主宰のマイク・ジョンソン。バハで輝かしい記録を持つ彼らしく、Rally Pro クラス 4 位、総合 6 位と貫禄の走り　④ SS1 を終え 2 日目のビバークはサン・キンティンのミッション・サンタマリア。SS2 は、ホテルの目の前に広がる砂丘とビーチから始まった。サンドに苦労するライダーたち　⑤太陽が傾きだし、水面が輝く太平洋をバックにライダーが駆け抜けていく。SS1 は大詰めに差し掛かり、このフラットダートを抜けるとサン・キンティンは近い　⑥サンニコラスホテルの駐車場にて。スタート前日にマシンをセットアップ、その後、Rally Comp ブースにて車検となる。数日間に渡って開催されるラリーレイドではレースサポートは必要不可欠か

10月11日～15日に開催されたBaja Rally2016。今年で4回目を迎えたこのイベントは、バハ・カリフォルニア半島では初めてとなるダカール・フォーマット＝ロードブックを読み解きながら5日間に渡って競う、ラリーレイドイベントだ。

2009年にツーリングでバハを走って以来、バハ・カリフォルニア半島の虜になった僕は、会社の仕事やバハ1000のサポートでバハを何度か訪れてはいたが、このバハラリーも一度は見てみたいイベントだった。夏前にバハラリーへコンタクトを取ったところ、運よくメディアチームに同行させてもらえることとなり、無理やり2週間の夏休みを会社に申請し、機上の人となった。

ティファナ空港で、今回メディアバンのドライバー兼コーディネーターを務めるフィリップと合流し、一路エンセナダへ。

10月10日になると、スタート、ゴールとなるエンセナダのサン・ニコラスホテル駐車場には、レーサーやサポートチームが集まりだした。しかし、今回のバハラリーで唯一のトラブルが起きた。

これまで30台前後のエントリー台数で推移していたバハラリーだが、今年は一気に80台までエントリーが増えた。その理由として、アクセスのよいアメリカやカナダ、本国メキシコからの参加者が増えたのに加え、ヨーロッ

Paradiso

上左○レースに花を添えるボニータ（かわいこ）なバハ・ラリーガールズも写真やゴールでのお出迎え、そして、ポディウムと大忙し　上右○ Baja Rally ではサポートも充実している。メディック（メディカルライダー）やスイーパーを務めるのはボランティアのバハライダーたち。影の立役者である　左○日高に続いて出場したローレンスさん。注目を集めるアフリカツインで見事クラス優勝。アンダーガードとノグチ・シートの最小限のモディファイで素性の良さを証明した

パのライダーが参加しやすいよう、フリーシッピングのコンテナが準備されたのだ。もちろん、エントリーフィを支払う必要はあるけれど、会場まで無料で輸送してくれるのは、北米大陸外からのライダーにとってはありがたいことだろう。

こうしてイギリスのリバプール港を出港した23台のバイクは、エンセナダ港に予定通り到着するはずだったが……結局、車検がとっくに終わったスタート前日の夜、コンテナを積んだトラックが会場に到着したのだった。翌日のスタート時間は大きく遅れたものの、無事バハラリー２０１６が幕を開けた。

今回の大まかなルートはこうだ。11日のプロローグステージは、エンセナダの南約40㎞にあるワイナリー、MDビーノを基点とするループコース。12日のSS1は太平洋沿いを南下し、その後、内陸の給油ポイントを経て、再び太平洋沿いをサン・キンティンへ。13日のSS2は、海岸沿いから内陸のカタビナへと一気に標高を上げる。カタビナで折り返し、14日のSS3はサボテン林を抜けて再び海岸沿いに丘陵エリアを駆け下り、マイクス・スカイ・ランチ近郊のエル・コヨーテまで一気に標高を上げる。

そして、最終日15日のSS4では山岳エリアを駆け下り、1号線に沿ってエンセナダへと帰る、トータル１２１１㎞で争われた。

各地のビバークでは、ナビゲーションが非常に難しいとライダーの話題に

太陽が昇ると同時にスタートしたSS3。ミッション・カタビナをスタートすると、巨大サボテンと奇岩の別世界が広がる。締まった空気を切り裂くスティーブ・ヘンジベルトの走り

Paradiso

Coolest things

サンディな路面、ライダーの巻き上げた埃に朝陽が反射し、ライダーの視界を奪う。
ライダーにはチャレジングだが、カメラを構えるものには幻想的な時間

Paradiso

トップのスティーブ・ヘンジベルトを追うトレント・バージス。SS2～4では常に彼を上回っていた。確実な速さを実現するベテランのキィウイ・ライダーだ

ラリーレイドは初参加ながら、Rally1クラス2位、総合でも4位と大健闘したイタリアン、フランチェスコ・チェッキーニ

授賞式ではRally Proクラス3位のジェラルド"ニーニョ"ロハスの登壇に地元メキシコチームが盛り上がった

サンニコラスホテルのプールサイドに並べられたマシン。ライダーからボランティアまでBaja Rally全参加者が集まった

SS4のハイスピード区間を走るメキシカンライダー、パトリック・レジェス。2017年のダカール出場を目指して2度目のBaja Rally参加

バハ1000でおなじみのBaja Pitが給油を務める。その他にも多くの人々のサポートにより、円滑かつ安全なイベント運営に配慮し、Baja Rallyは成り立っている

カタビナのミッション・カタビナのビバークにて。ホテル泊かキャンプ泊かはチームによってまちまち。夕陽が差し込む時間は、誰にとっても一息つける時間だ

ヨーロッパを出港した23台のラリーバイクは、スタート前日夜にようやくデリバリーされた。クレートを開け、マシンのセットアップと夜中まで慌ただしい時間が続いた

なっていたが、実際、僕は走ったわけではないのでレースの実情は、昨年参加した篠原祐二さんや、日高2デイズエンデューロにも参戦していたカナダのジャーナリスト、ローレンス・ハッキングさんによるレポートをご覧頂いたほうがいいだろう。

結果、Rally1Proクラスは、バハ1000のチャンピオンであり前年の覇者でもあるスティーブ・ヘンジベルトが安定した、かつアグレッシブな走りで総合2連覇。

続いての2位は昨年4位、堅実な走りが真骨頂のトレント・バージス。3位には、地元バハ出身、2015メシキカン・クロスカントリーチャンピオンのジェラルド"ニーニョ"ロハスが入った。

注目すべきライダーとして、今回が初めてのラリーレイドとなったイタリア人ライダー、フランチェスコ・チェッキーニがRally1クラスで2位、総合4位と大健闘。

話題のホンダ・CRF1000Lで出場したカナディアン・エンデューロライダーであり、日高にも出場したローレンス・ハッキングが見事ADV Expertクラス優勝を果たした。

レース最終日。写真を撮りながらコーディネーターのフィリップと話をしていると、こんな提案があった。

「今年は日本人ライダーがいなくて残念だ。でも来年、日本向けに5、6台が入れられるフリーのコンテナを用意したら誰か参加するだろうか？」僕はその質問に間髪入れず「もちろん！」と答えた。

これはフィリップの冗談かもしれないけれど、もし本当の話だとしたら、あなたならどうする？　もし少しでも興味があればぜひrider編集部までご連絡を。僕でも多少の橋渡しはできるかもしれない。もしそれが実現したら、最後のひと枠は僕に残しておいて欲しいけれども（笑）。

Rally Pro Class	No.	Country	BIKE
1 Steve Hengeveld	1	USA	HONDA
2 Trent Burgis	13	NEW ZEALAND	KTM
3 Gerardo Nino	24	MEXICO	KTM

Rally 1 Class			
1 Tony Gurule	15	USA	KTM
2 Francesco Checchini	67	ITALY	KTM
3 James Mitchell	9	USA	KTM

ADV Expert Class			
1 Lawrence Hacking	26	CANADA	HONDA
2 Keith Billings	81	CANADA	KTM
3 Casey Hilliard	53	USA	BMW